

エコのまち沼津

第2回 めまづ エコ活動 コンテスト

身近なエコ活動が大集合！

●開催日／平成24年 **2月5日(日)**

●会 場／沼津市民文化センター 大ホール

実施報告書



- 主 催／沼津市
- 後 援／静岡県、静岡県地球温暖化防止活動推進センター
沼津市自治会連合会、省エネ推進ネットワークめまづ
- 協 賛／南駿農業協同組合、沼津市商店街連盟
沼津仲見世商店街振興組合、沼津大手町商店街振興組合
- 協力団体／NPO法人狩野川倶楽部、K-M I X



雄大な富士を仰ぐ 美しい海岸線
緑豊かな山々と恵みの川 かけがえのない自然と
そこに暮らす いのちを守り 未来につなぐまち 沼津
～「沼津市環境基本計画」・望ましい環境像～

目次 Index

ごあいさつ	2
沼津市長 栗原裕康 審査員長 服部乃利子さん	
コンテスト発表チームのご紹介	
金 賞 大平コミュニティ推進委員会「エコ・環境部会」	3
銀 賞 愛鷹広域公園管理事務所	4
銅 賞 寿町エコキッズ	5
審査員特別賞 劇団テアトル・エコ	6
入 賞 てんぴ	7
金岡地区エコリーダー	8
西沢田自治会	9
金岡中部自治会 A	10
原地区社会福祉協議会「ひまわりグループ」	11
エコネット沼津	12
審査員のご紹介・応募チームのご紹介	13
緑のカーテン写真コンクール表彰式	14
エコ展示会	15
講演会 講師：プロ・ラフティングチーム＜チーム・テイケイ＞監督 浅野重人さん	17
同時開催「ちびっこ自然学校」 NPO 法人狩野川倶楽部	18



沼津市長
くりはら ひろやす

栗原 裕康

私は市長就任当初より「環境を大切にする沼津市を作ろう」というテーマで「エコのまち沼津」の推進に努めてまいりました。市としてもエコ活動が市民の皆様へ浸透しているまちとして確立することが市の将来像として素晴らしいことだと考えております。

太陽光発電やLED 化などハード面ばかりが強調されがちですが、むしろライフスタイルを変えながら身近なところでエコ活動をする市民のたくさん住むまちが私の理想です。そこには沼津方式といわれる全国でも先駆的なゴミの分別収集を実行しているまちとしての素地があるからかもしれません。だからこそ沼津にエコ活動が生きるのではないのでしょうか。

第2回ぬまづエコ活動コンテストは、うれしいことに昨年を上回る27チームの参加応募をいただきました。

さらにこの輪が広がり、市民の皆様がライフスタイルを変えて、自ら率先してエコ活動をする「エコライフ」のお手本のまちになることを夢見ております。



審査員長
はっとり のりこ

服部 乃利子

第2回ぬまづエコ活動コンテストの成功、おめでとうございます。

今回は1回目よりたくさんの応募があったとのこと。その中から、よりすぐれた活動が発表され、皆様の熱気とともにエコ活動が沼津市内に広がっていることを感じさせてもらえるものでした。

特に自治会を中心に、あるいは自治会と連携して取り組んだ活動が多く、どれも地域性を活かした沼津ならではの取組みであることはもちろんのこと、無理せずかつ地域の皆さんを巻き込みながら積極的に参加していらっしゃる様子を見せていただきました。加えて、子供たちとともに活動に取り組んでくださっていることも印象的でした。

エコ活動に特化した市主催によるコンテストとして静岡県内初だったこのコンテスト。2年目にして、沼津の皆さんの取組みが地域にきちんと根付いてきていることをしっかり見せていただきました。静岡県内の温暖化防止のお手本として、沼津のエコパワーをこれからもどしどし発信してください。



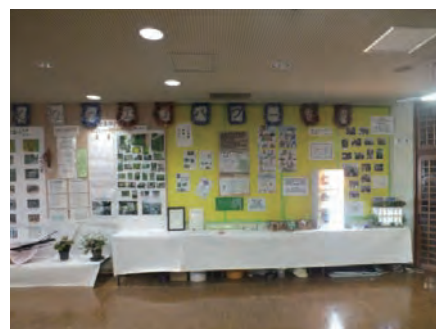
大平コミュニティ推進委員会「エコ・環境部会」

「一人一人が地球の未来を守るサポーター！！」

自然環境整備保全と大平の人々が取り組んだ夏のエコ活動」

三方を山に、一方を狩野川に面した大平地域は、世帯数1,250、人口4,160人で、やや東西に長い半円形をしています。私たちが暮らす大平の里も、時代の流れ、生活様式の多様化から少しずつ環境に変化が見られるようになりました。大平コミュニティ推進委員会では、変わりつつある環境の変化を、大平全域の問題として捉え、一人ひとりが地球の未来を守るサポーター、自然環境、整備、保全と大平の人々が取り組んだ夏のエコ活動をテーマにして、エコ意識を持って活動を進めてきました。「緑のカーテン普及大作戦」や「どこもかしこも花いっぱい大作戦」、「休耕田畑の活用大作戦」、「エコ活動 PR大作戦」、「ゴミの不法投棄撲滅大作戦」、「竹藪整備と防犯大作戦」など、地域みんなが参加しやすい仕組みづくりにも工夫しました。

『一人ひとりが地球の未来を守るサポーターです。小さなエコ活動の積み重ねが地球の環境を守ります。私たちは、環境への配慮を怠ることなく、先人から託された大切な大平の里を次の世代へ胸を張ってバトンタッチできるように活動を進めます。』





愛鷹広域公園管理事務所

「がんばろう日本！」

ふじのくに節電プロジェクト IN 愛鷹

愛鷹広域公園は、平成元年に野球場、平成8年に多目的競技場とスポーツ広場が供用開始となり、東部地域のスポーツの拠点として、年間22万人の皆様にご利用いただいています。2011年は静岡県から15%の電力節減の要請があり、私達が出来る事を全力で取り組むこととしました。

「競技場利用者等に対する利便を損なわない」、「施設の稼働時間の制限は行わない」など4項目を基本に取り組みました。また、省エネの仕方としては、とめる、やめる、とる、ずらす、自然の活用をするを基本に取り組みました。

少しでもエアコンの使用を減らしたいとの観点でグリーンカーテンを作り、窓の開放や扇風機の活用により、エアコンを全て停止することにしました。グリーンカーテンの効果は大きなものがありましたが、もう1つの大きな要因は職員一人一人が電力節減の意識を高く持ち、取り組んできた事にあります。

今後も雨水の再利用や照明のLED化、公園西側の沢を利用した小規模水力発電等を検討し、計画的に進めていくなどエコ活動を継続し快適な環境とエコ活動を両立していきます。



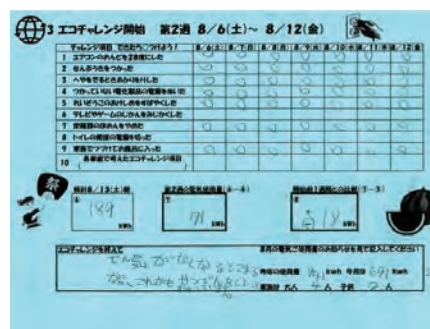
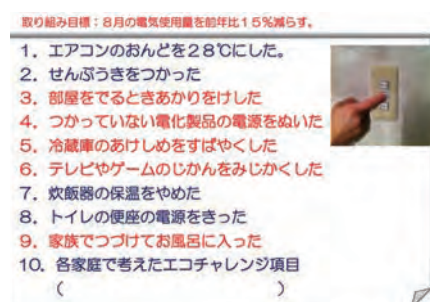


寿町エコキッズ

「みんなエコキッズ 2011 節電しよう」

寿町は、沼津駅と国道1号バイパスを繋ぐリコー通りの中ほどにあり、世帯数510世帯で1,200人が住んでいます。寿町エコキッズが活動を始めたきっかけは、東日本大震災を原因とする電力不足が心配され、今なお震災被害で苦しい思いをされている方々が大勢いらっしゃるからです。私たちに何ができるか考えたところ、市街地という特性もあり、昨年の夏、「エコ」をキーワードに節電に取り組むことになりました。方法として、寿町独自のエコチャレンジシートを作成し子ども会の全世帯に配布、このシートを基に活動し、集計しました。目標は8月の電気使用量を前年と比べて15%減らすことにしました。チャレンジ項目を取り組みやすい項目にしたことと、家族で協力しなければならない項目も取り入れたことで目標の前年比電気使用量15%削減を大きく上回り、約22%削減できました。

私たち子ども会は、今回の活動をとおしてエコ意識を高めるのと同時に、家族の絆や地域との繋がりも実感することができました。





劇団テアトル エコ

「にここにこ省エネ 冷蔵庫」

私たちは、戸田地区の小さな NPO です。10 年ほど前から、環境保全も一つのテーマとして活動しております。

現在、地球温暖化により、海岸の水位は年々上がっていると言われています。戸田地域の生活は海と密接に通じており、多くの住民は漁業や水産加工業を含め、海と共に生活しています。

後世に残すことのできる美しい戸田の海と自然は、今の私たちが努力しないと簡単に失われてしまいます。私たちは、日頃から大事な地球を、海を守りたいと思っています。

そこで、私たちは、生活になくてはならない「冷蔵庫」を題材に、分かり易く省エネについて考え直していただく機会を持ってもらえるよう、コント風の寸劇を作りました。

この寸劇を敬老会で行なったところ、会場から笑いが絶えず、皆さんから好評をいただきました。

来年は、「ゴミ」をテーマに、高齢者に分かり易い寸劇を考えていきます。これからも、地域の枠にとらわれず精力的に活動していきたいと思っています。





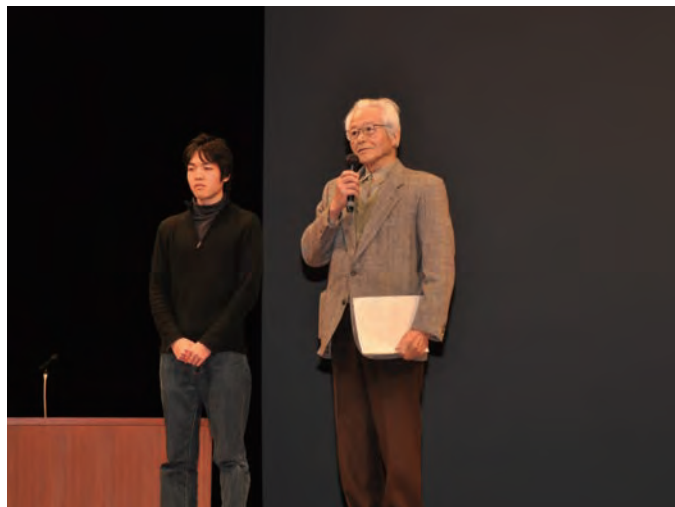
てんぴ

「生ゴミの減水」

私たちはゴミの減量作業に天日乾燥を組み入れて実施しています。家庭生活における日常のゴミ対策を振り返り、その対策が地球環境の保全に役立っているかを検証し、今後の対策と高齢者が無理なく出来る事、その役割等について考えてみることにしました。

平成17年度と18年度の市民環境大学ゴミ講座を受講し、分別と減量が主題の講座の中で、ゴミ処理の基本理念とその役割、市民の役割、事業者の役割、行政の役割について学習しました。その学習の中で、燃やすゴミの減量には生ゴミの堆肥化によるリサイクルと、燃やすゴミに含まれる約60%の水分を減らす事が必要で、特に台所から出る生ゴミの減水が減量効果の高いことを再認識しました。受講前の減水作業は、台所から発生する生ゴミを水切り用に加工した生ゴミ入れに保管していましたが、受講後は減水効率の良い天日乾燥を主作業にして乾燥状態を点検した後、指定袋に入れています。

私たちは市民の役割として日常生活の中で無理なく出来る環境保全、生ゴミの減水作業を高齢者の役割、率先作業と位置付け、これからも続けていきます。





金岡地区エコリーダー

「金岡地区のエコ活動をナンバー１に！！」

金岡地区は愛鷹、第五、門池に囲まれた地域で、沼津市の中でも世帯数が一番多い地区です。

環境の取り組みを市内全域に拡大するためには、「地域」というまとまりが欠かせません。そのような目的のために、連合自治会ごとに地域エコリーダーが選出されており、その役割は、地域のエコ活動の推進及び啓発、エコ活動の推進者育成及び指導並びに省エネの普及です。

私たちは金岡地区の地域エコリーダーとして、まず自分の地域にどういう問題があつて、また良いことをやっているのか、それを伸ばすことを基本とし、エコ活動の主体を子ども会に位置付けました。

子どもが率先してエコに携わることをねらいとして、活動のテーマとしては無理なく楽しく続けることとしました。

今回のぬまづエコ活動コンテストには、金岡地区の16町内が応募しています。活動テーマは、清掃や緑化を中心にエコキャンドル作りや公園の草刈りなど様々ですが、どの取り組みも中心となる自治会子ども会の継続的な参加が必要です。

来年は、金岡地区の全自治会参加を目指して、金岡地区エコリーダーとして貢献していきたいと思います。

『住んでてよかった金岡！』





西沢田自治会

「身近な美しい自然を守ろう！！」

西沢田自治会として、どのような取り組みをしていくかを考えた時、まず自分たちの暮らしている地域の良いところを見直すことにしました。これまでも自治会による清掃活動などが積極的に行われていましたので、それならこの活動を子どもたちに広めていこうと考え、自治会と子ども会が協力しあい活動を進めていくということになりました。その取り組みの内容といたしましてエコキャップ回収活動を自治会全体で行うこと、これまでも行われてきた植樹の継続、西川ダム草刈り作業後に子ども会によるゴミ拾い活動を始めました。

植樹については、これまで毎年、西沢田子ども会新一年生により行ってきた、桜の木の植樹を引き続き継続していくことを決めました。まず自分たちにも出来る小さなことから始め、それをきっかけにエコに関する視野を広げていってほしいとの考えにより始めたこのエコ活動が、地域の環境美化や、ゴミの分別を学び、その上、身近な地域貢献にも一役買えることができたと思います。

引き続き、自治会と子ども会とで、協力してこのような意義ある活動に取り組んでいきたいと思います。いつか、このダムに蛍が帰ってくるようにダム清掃を続けて頑張りたいです。

